

事例とアドバイスで進路指導実践を磨く!

学部学科選択の前に行いたい 視野を広げる学問・仕事研究

進路選択に向けた職業理解や学部学科研究は広く行われていますが、
現場からは知っている中からしか選ばない、
選んだら終わりです。学問の内容理解を深めきれない…といった悩みも聞こえてきます。
学校はどんな働きかけをすればよいのでしょうか。
事例に加え、学問研究を深める取り組みの実践者にポイントを解説してもらいます。

取材・文／永井ミカ

学問は「文理融合」その奥深さ・幅広さを伝えたい

生徒は職種と学部を1対1で考えたり、文系・理系選択ですべてが決まってしまうと考えたりしがち。そこで、学問の幅広さや奥深さ、学問同士のつながりなどを理解させ、視野を広げてあげるのが指導のポイントになってきます。

学問は文理に分かれないし
職業とも直結しない

進学校なら文系か理系か、多様な学校なら大学が専門学校か、どんな学校であれ生徒に早く進路志望を決めさせなくてはならない事情があります。これを「決めなくてはいけない」とネガティブにとらえるのではなく、「学問についてみんなが考えるいい機会」であるところさえ伝えたいものです。

実際には学問は文理で分かれるわけではなく、医学系などの一部を除いて学部学科が職業に直結するわけでもありません。まずそのことを念頭に置くこと。そして、高校で決めることが最終目標なのではなく、「今」の目標を決めればいいのだということを伝えていきましょう。なお、進路志望を決めるスピードにとまどうのは保護者も同じ。生徒と併せて保護者にも理解を求める必要があります。

指導ポイント

1

学問同士のつながりを伝える

数学(理系)と経済学(文系)など、学問は互いに強く関連しあっていることを伝えます。「文理分け」ではなく「文理融合」なのだということがわかるように、大学の先生から話を聞いたり、関連本を読んだり、オープンキャンパスに参加するのもおすすめです。

2

職業と学問の関係は1対1でないことを伝える

学部と職業が直結しているのは、医学部、看護学部などごく一部。多くの場合は、学問によって仕事に限定されるわけではありません。例えば法学部の学生を3人呼び、法曹界、公務員、一般企業とそれぞれの道に進むことを話してもらうなど、生徒に具体的に伝えていきたいものです。

3

最終目標ではなく“今”の目標を決めさせる

進路志望は決めなくてはなりません、今決める目標が後で変わってもいい、むしろ変わっていくのが自然だと、生徒にアドバイスします。まずは、恐れず、漫然とせず、今の時点の目標を決めること。そして感性を磨いていくこと。目標が変わることは成長の証だと伝えましょう。

今号のアドバイザー

多彩なゲストを招き、
科目を超えた
総合知を身につける
「リベラルゼミ」を
企画・実施



福島県立福島高校
進路指導主事

浜田伸一先生

小誌No.39(2011.12)、「改革者たち」では浜田先生の取り組みをレポート。キャリアガイダンス.netに電子ブックを掲載中

ランダムに分野を割り振って興味を広げ 思考を深める「ICT活用による学問調べ」

課題

なりたいたい職業と学校が直結していると思いついている生徒が多い。
生徒の視野を広げ、学問そのものに興味をもってもらいたい。

北海道・道立 北海道函館稜北高校

2013年度より、国立教育政策研究所の「総合的な学習の時間」研究指定校となっている北海道函館稜北高校。教科学力と総合力(見えない学力)を同時に高めることが「確かな学力」につながるとして、長年、さまざまな実践に取り組んできた。その中の一つが「ICT活用による学問調べ」。1年生の11月から1月にかけて、総合的な学習の時間内で行う。

あえて生徒の希望をとらず 新たな気づきを促す

入学時点では大学進学が専門学校進学かを決めていない生徒が多い、という同校。インターネットを使って職業から進路調べをすると、「アナウンサーになるにはアナウンサー養成コースのある専門学校」

「情報技術者になるためにはパソコン技術が必要」という結論に至る。「情報技術者になるには、コンピュータ操作より数学を勉強することが大切と理解するのが難しいようです。もっと学問の本質へと思考を深めてほしい。視野を広げてほしい。進路探究の入り口で選択肢を狭めないでほしい。そんな思いで学問を基点に進路探究をする「ICT活用による学問調べ」を実施しています」と、総合学習委員会委員長である藤島尚子先生は言う。

学問調べは5人のグループで行うが、グループ分けは出席番号順で機械的に。そして、調べた学問についても「1班は法学と医・歯学」というように、文系と理系の分野を一つずつ割り振っていく。「生徒の意外な発見や、学問に対するイメージが変わっていくこと、思ってもいなかった

学問に興味をもつことを期待しているので、あえて希望はとりません」と藤島先生。生徒はインターネットや図書館資料、進路情報誌などを駆使して学問について調べる。

さらに、09年度よりNIE実践校に認定されたことから、学問調べの情報源として新聞も取り入れた。1カ月分の新聞の中から学問に関連する記事を探すが、旬の情報は生徒の意欲を喚起する効果もある。また、新聞記事を探するとき、生徒には「誰かの進路調べに役立つかもしれない」という視点も加わる。

最後は各グループがまとめたものをコピーして全員に配り、クラス内で発表・質疑応答。ここで生徒は自分が興味のある学問にも触れることになる。「自分で調べ、クラスメートの発表を聞き、いろいろ

なことができる可能性に気づいてほしい。学問調べを経験することで、面談時の話題の広がりなどの効果を感じていきます(藤島先生)。

発表用ワークシート

ダウンロード可

発表用ワークシート(発表原稿)		自分の学習「」(自己学習による学問調べ)	
*このシートは個人シートを基に、組で学問ごとに1枚(科目数・文系と理系)を作成し、発表。			
氏名	学級	学級	記入担当
姓	名	発表	(発表)
学級系統	分野	系統	の中の(分野)
学問の目的			
調べた学問			
関連する高校の教科		自分の発見	
卒業後の主な進路			
大学選びのアドバイス			
この学問が学べる大学	大学	学部	学科・コース
学問の探究			

項目は、学問の内容、近い学問、関連する高校の教科、最近の動向、卒業後の主な進路、大学選びのアドバイス、この学問が学べる学部や研究室、重要キーワード、重要図書

事例実施データ

実施対象：1年生全員
実施時期：11月～1月
実施時間：総合的な学習の時間
担当部署：総合学習委員会

School Data

創立1983年／普通科
生徒数439人(男子178人・女子261人)
進路状況(2013年度)／
大学進学44%・短大進学11%
専各進学30%・就職7%・その他8%

教員が好きなテーマでゼミを開講。 課題研究を通して学問への探究心を育てる

課題

進路に向けた生徒の自発性・主体性を育てきれていない。
進路実現へのモチベーションを高めたい。

宮城県・県立

石巻好文館高校

いしのまきこうぶんかん

興味のある分野を深く研究する「分野別課題研究」を、2013年度に初めて実施した石巻好文館高校。同校の校訓の一つに「自発能動」があるが、昨今、生徒の自発性・主体性を育てる難しさを感じていたという。そこでまず、新分掌として情報総合部を立ち上げ、学校を挙げたの総合的な学習の時間の改革に着手。その中の取り組みとして、ゼミ形式の「分野別課題研究」をスタートさせた。

全員が自由に取り組み 興味関心を検証する

2年生の9月、ゼミを開講する教員（2年生の担任）13人が、生徒に向けてプレゼンを実施。自然科学、家政学、文学などそれぞれが興味や専門を生かしたテ

ーマで学問の奥深さや幅広さを熱く語った。その後、生徒の希望で所属ゼミが決まると、個人またはグループで研究テーマを設定して、課題発見、情報収集、情報整理・分析、そして自らの考え・意見をまとめ、表現するという活動を行っていく。

2年生といえは進みたい学部学科も決まるころだが、「まだ漠然とした夢である生徒も多く、狭い視野で進路目標を決めている場合もあります。ゼミ活動を通して進路目標について検証し知識を深めると同時に、他者に磨かれながら試行錯誤することで、達成感や充実感を味わい進路実現へのモチベーションを高めてくれれば」と主幹教諭の岡崎拓生先生は言う。

1年生も聴講する中間発表のあとは、大学教授による出張講義が入る。そ

の後も引き続き何カ月にもわたって研究を続けるうえでルールは、ゼミ内で話し合いながら活動すること。ゼミによっては他の学年の先生を客員教授として迎えるなどの工夫も見られた。そして、最終発表に向けて研究レポートをまとめ、2月にはゼミ内で発表。3月に代表者たちが頂上決戦をし、最優秀賞を決めた。

「生徒たちが学ぶことの面白さや、協働して研究・発表することの難しさを知る機会になりました」と岡崎先生。「これまで自分の興味関心について検証する機会がなかなかなかったことを考えると、やつて本当によかった。来年はもっと効果的に開催したいです」。

「教員も学んだ」と言うのは情報総合部長の渡邊伸明先生。「楽しそうに取り組む生徒を見て、生徒がすばらしい力と

可能性をもっていることに気づきました。もしかしたら私たちは生徒の力を過小評価していたのかもしれない」。

各ゼミから代表で選出された研究テーマ

- 「竹取物語の謎」(文学系ゼミ)
- 「海外との制度・文化・考え方の違い～日本との比較」(国際文化学系②)
- 「右脳とリラックスの関係」(脳科学系)
- 「果物の栄養学」(家政学系)
- 「のど飴の効果と殺菌成分について」(薬学系)
- 「モンティ・ホール問題について」(数学系)
- 「『かごめ かごめ』はミステリー?!」(民俗学系)
- 「ナポレオンの半生～栄光と挫折」(社会学・歴史学系)
- 「ストレスを全く感じなければ人は楽しくなるのか!!」(教育学・心理学系)
- 「Compare!! the difference of the world history」(国際文化学系①)
- 「紙飛行機をよく飛ばす条件」(自然科学系)
- 「障害児の現状」(教育学・保育学系)
- 「宮城の復興」(地域社会学系)

事例実施データ

実施対象：2年生全員
実施時期：9月～3月
実施時間：総合的な学習の時間
担当部署：情報総合部

School Data

創立1911年／普通科
生徒数585人(男子201人・女子384人)
進路状況(2013年度)／
大学進学64.2%・短大進学4.7%
専各進学21.8%・就職7.8・その他1.5%

卒業生だから熱く語れる 20人・20職種のリアルな仕事と学問

課題

文理選択までの時間が短く将来を見通した選択になっていない。
学部学科を決める前に仕事について考えさせたい。

熊本県・県立

済々黌高校

せいせいこう

熊本県立済々黌高校の職業別講演会は15年ほど前から行われてきた。さまざまな職業の卒業生が後輩のために熱く語る仕事、進路、学問、生き方の話。当初は2年生での取り組みだったが、7年前からは1年生で実施されるようになった。

生徒が進路を決めるには さまざまなアプローチがある

「実施時期を早めたのは、学部学科を決める前に社会人の話を聞き、将来を見通した選択をしてほしいと考えたから」と言うのは、進路指導主事の中川泰先生。文理選択の前に幅広く社会を知る機会として、卒業生約20人（20職種）を招いて講演を行っている。事前指導として2週間ほど前に全体講演を実施。そして、当

日は職業人が教室に分かれて話をする。生徒は興味のある職業人2人の話を保護者と一緒に聞ける。

学校からはリアリティのある話をしてほしいと依頼。医師や看護師、教員などのほか、企業の営業職や官僚、県庁職員など、イメージにくい職業人にも依頼し、仕事の内容のほか、学んだ学問と仕事とのつながり、進路、学習法、高校生活の話なども盛り込んでもらう。「ときには叱咤激励してくれる熱いところが、卒業生に語ってもらう良さ」だそうだ。

「進路を選ぶ際、学問への興味から選ぶ生徒もいれば、仕事から入る生徒もいます。いずれにしても大切なのは主体的に学ぶこと。そのきっかけになれば」と中川先生。職業別講演会は生徒に好評で、今後も取り組みは続けていく考えだ。

事例実施データ

実施対象：1年生全員
実施時期：10月
実施時間：PTA関連行事
担当部署：進路指導部

School Data

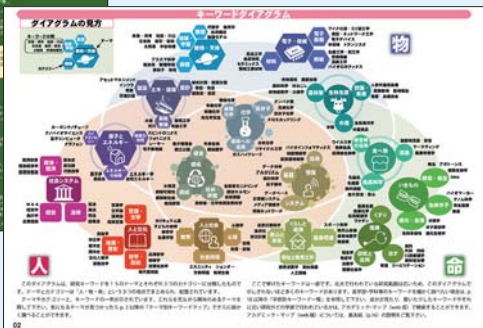
創立1882年／普通科
生徒数1236人（男子635人・女子601人）
進路状況（2013年度）／
大学進学70.4％・短大進学0.2％
専各進学1.2％・就職0.5％・その他27.6％

学問分野について知る参考資料

北海道大学の 「アカデミック・マップ」

北海道大学が大学の新入生向けにつくっている「アカデミック・マップ」。同大学の学問・研究を整理したもので、オンライン版ではテーマ別やキーワードによって関連する学問を調べたり、つながりを知ったりすることができる。学問分野から調べることも可能だ。

「大学のマップなので学問分野が網羅されていないが、学問分野研究の資料としては役立ちそう。特に、冊子版の「キーワードダイアグラム」は、学問同士が実はつながっているということを直感的に感じることができるのでおすすめ。



http://asc.high.hokudai.ac.jp/academic_navigation/academic_map/